
富岡町の取り組み

(安部敬子ほか、安村誠司・編：原子力災害の公衆衛生、東京、南山堂、2014、111-121)

2017年3月6日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

【富岡町の状況】 人口：14,536（2013年）高齢化率：22.3%

地勢・総面積：68.47km² 福島第一原子力発電所からの距離：約9km

避難状況：自治体外設置避難所への避難者概数：2900人（2011年3月末）

【栄養（食事・水など）】

- ・ビッグパレット移動後は食事が大量にあった。
- ・他にすることがなく食べて寝る生活を送り体重増加を引き起こした。
- ・避難所では配布する食糧の制限がひつようである。

【運動】

- ・ビッグパレットは、環境的に何か月も生活できる場所ではなかった。
- ・住民にとって避難生活は非日常であるため、日常的に行っていた運動であってもなかなか重い腰が上がらない状況だった。声かけや情報提供を繰り返し、一緒に行くことが重要である。

【休養】

- ・アルコール依存症は避難以前から患っていた人もいたが、震災による生活の変化（失業、家族との離散）や身近な人の死などが原因となり、アルコールに依存するようになった人もいる。環境が及ぼす影響がとても大きいと感じる。
- ・震災後、自殺者が増えている状況にあり、対策が急務である。

【妊婦・子供に関して】

- ・福島第一原発の事故の影響で、外で遊ぶ機会が減った。
- ・運動の効果や放射線の影響などを、わかりやすく保護者に情報提供する必要がある。
- ・小児生活習慣病対策が必要。
- ・妊産婦や乳幼児の家庭訪問や電話相談を充実させる。
- ・安心して子供を産み育てられる環境を整備することが最重要課題である。

【災害時要援護者】

- ・避難所に入ってもらう際は、乳幼児や高齢者、障害者などについて健常人との住み分けを最初から計画的に行わないと、あとからでは対応が難しくなる。住み分けできれば、支援が効率的にできる。
- ・要援助者は日常と違う環境に特に反応しやすく、病状が不安定になる。
- ・要援助者台帳を整備し、台帳に基づいてさまざまな支援を提供しなければならない。